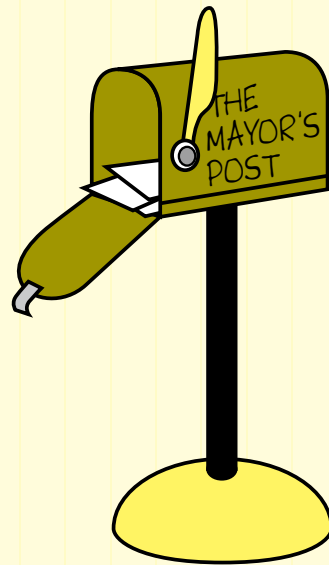


# 市長への 手紙

## カラーを分かち合う社会へ



前回特集では「多文化共生のニュージェネレーション」ともいえるべき若者たちを紹介しました。そんな新世代の一人、中区に住む日系ブラジル人Sさんからの手紙をお届けしましょう(誌面の都合で内容を一部編集しています)。

最近、「多文化共生」という言葉をよく耳にするようになりました。

ここ、浜松市は全国でも私たちのような外国人が多く住む都市だということもあり、外国人も日本人も安心して暮らせるように「多文化共生」のまちづくりを進めていると伺いました。外国人向けの日本語講座や、外国人の小中学生のサポート、外国人と一般の日本人が交流を深める活動など、さまざまな取り組みがあり、頼もしいです。

私たち外国人にとって、多くの活動を通じて、新しい発見や新しい知識が身に付く一方、日本語が不十分な外国人とコミュニケーションが取れずトラブルになったり、外国人学校、日本の学校、どちらの学校にも通っていない不就学の子どもがいたりするなど、解決すべき

課題もあります。

しかし、ニュージェネレーションと呼ばれる日本社会で育った外国人の子どもたちが、閉塞感漂う現在の日本社会に風穴を開けて、外国人と日本人との橋渡しをすれば、それぞれのカラーを分かち合いつつ互いに生かし合う社会へクチェンジしていくだろうと、強く思います。

もちろん、そこまで至るには外国人の日本人に対する意識、また、日本人の外国人に対する意識を変えることが必要です。そして、お互いの良いところは認めて、悪いところは素直に受け入れて直すこと。みんなが協力して切磋琢磨すれば、より良い方向に転換すると思います。そんな環境が、今後生まれるよう、市民一人ひとりの意識改革が大切ではないでしょうか。

### 特集タイトルの由来

#### 誰がために鐘は鳴る

For Whom the Bell Tolls

(ヘミングウェイが1940年に発表した長編小説)

税はあなた自身、そして  
地域の将来のためにある

この小説のタイトルにある「鐘」とは、亡くなった人を弔う鐘のこと。転じて、他人の不幸に対して無関心とならず、他人の苦しみを自分の苦しみとして感じなければならない、という戒めを意味します。税についても、自分のことだけを考えて納税を怠るのは禁物。税はあなた自身、そして地域全体の将来のためにあるのですから。